

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

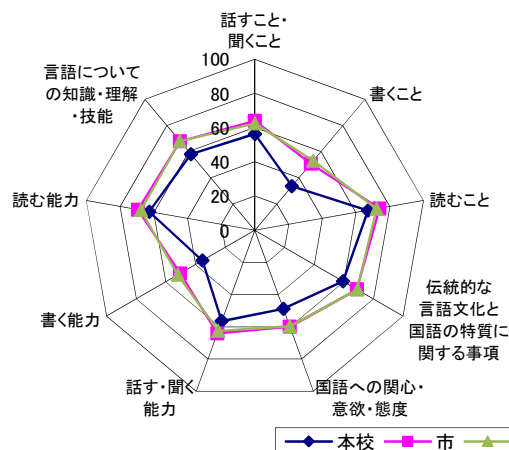
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	56.4	64.0	62.5
	書くこと	33.7	50.9	53.1
	読むこと	67.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	48.7	59.9	59.7
	話す・聞く能力	56.4	64.0	62.5
	書く能力	35.3	50.4	52.0
	読む能力	62.6	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	58.2	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

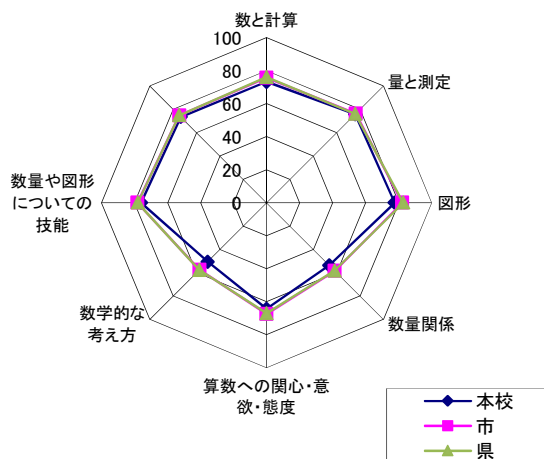
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市の平均と比べて低い。</p> <p>○大事なことを落とさないように聞き取ることはできている。</p> <p>○聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えることはできている。</p> <p>●話題に沿った意見と理由を考えて話すことに課題が見られる。</p> <p>●インタビューの質問のねらいについての理解が不十分である。</p>	<p>・授業や朝の会などでスピーチを行う際に、相手に伝わるように話したり、相手が伝えたいことを理解して聞いたりすることを意識して話したり聞いたりすることができるように繰り返し指導する。</p> <p>・各教科や学級活動において、自他の意見やその理由を交換し合える場面を意識的に設けていくことで、話題に沿った話合いの仕方について理解が図られるように指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は市の平均と比べて大幅に低い。</p> <p>●指定された長さで文章を書くことに課題が見られる。</p> <p>●段落構成を考えたり話題の中心を明確にして書くことや理由や事例を挙げて文を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・無回答の児童が多かったことから、全問題に取り組めなかったことや書くことへの苦手意識を持つ児童が多いことがうかがえる。題意を読み取る能力の育成と書くことへの苦手意識を減らすことが必要であると考え。</p> <p>・授業や自主学習などでテーマを設けた短文作りや主語、述語、修飾語への理解を深めるプリントなどに取り組ませ、書くことに慣れるよう、指導をしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市の平均と比べて低い。</p> <p>○登場人物の気持ちや場面の様子を読み取ることはよくできた。</p> <p>●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・好んで読書に取り組める児童が多いことから、物語文への理解が高いと考えられる。今後も隙間時間等を利用して、読書の機会を確保していく。</p> <p>・説明文における段落の役割について、自力で考えたり理解したりすることができるよう、図式化したり絵と段落とを結び付けたりする作業などに取り組ませ、文章の内容を的確に読み取る力を育成する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は市の平均と比べて低い。</p> <p>○「板」のように画数の少ない漢字はよく書けている。</p> <p>●画数の多い漢字や送り仮名を含む漢字の理解が不十分である。</p>	<p>・筆順や熟語を形成する漢字各々の意味についての説明をしたり、辞書を活用したりすることで、漢字に対する抵抗感を減らしていく。</p> <p>・漢字練習やドリル、プリント等を用いて、繰り返し練習を行ったりミニテストを実施したりして、漢字の定着を図る。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.3	75.8	76.1
	量と測定	75.9	76.5	76.0
	図形	77.6	82.1	82.7
	数量関係	53.7	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	64.2	67.4	67.0
	数学的な考え方	50.5	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	76.1	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	73.5	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

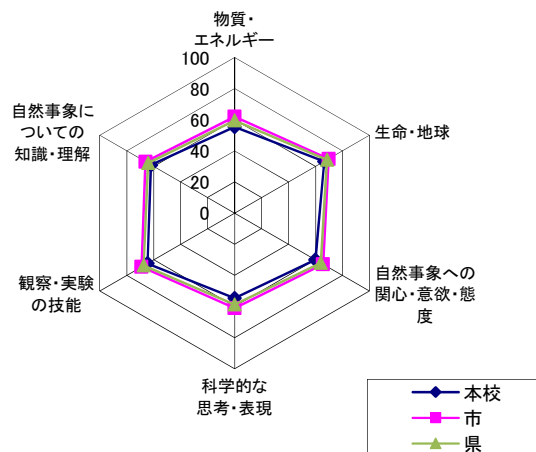
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○2けた÷1けた(余りなし・余りあり)の計算は、市の平均を上回り、よく理解できている。</p> <p>○小数のしくみについてよく理解できている。</p> <p>●文章問題を解くための除法の式を選ぶことに課題が見られる。</p> <p>●かけ算の筆算に出てくる途中の数の意味についての理解が不十分である。</p>	<p>・今後も引き続き計算ドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。</p> <p>・文章問題では、児童の理解が図られるようにテープ図や数直線等を用いて丁寧に指導する。</p> <p>・乗法や除法の筆算の仕方を指導する際に、途中の計算過程や位取りについて理解が図られるよう丁寧に指導する。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○時刻と時間についてよく理解できている。2つの時刻を比較して、その間の時間を求める問題は、市の平均を大きく上回り、よくできている。</p> <p>○はかりの目盛りの読み方や、ものの重さを考えながら重さの単位を選ぶことがよくできている。</p> <p>●地図から読み取った2つの道のりについて、長さの大小を比べる問題に課題が見られる。</p>	<p>・実際にはかりなどの道具を使って測定するといった体験的・操作的な活動を充実させ、実感を伴った理解ができるようにする。</p> <p>・日常生活の中で、長さや時間、重さなどを意識させ、単位に関する感覚を磨くようにする。</p> <p>・「道のり」と「きより」の意味について正しい理解ができるように繰り返し指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○正三角形の作図は、よくできた。</p> <p>●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求めることに課題が見られる。</p>	<p>・体験的、操作的活動を通して図形の定義や性質を考え、自分の言葉で説明し合うなどの言語活動を取り入れて、図形の知識を定着させる。</p> <p>・球の断面図が分かる模型を用いて、球の直径や半径について理解できるように指導する。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○□を使った文章問題(減法の場合)を表した図を選ぶことがよくできている。</p> <p>●棒グラフを正しく読み取ることに課題が見られる。</p> <p>●棒グラフを書く際に、最も大きい値から棒グラフの目盛りの大きさを考えて説明することに課題が見られる。</p>	<p>・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線に表して立式し、互いに説明し合う活動を多く取り入れる。</p> <p>・棒グラフや折れ線グラフの特徴や目盛りの読み方等を丁寧に指導する。また、他教科と関連付け、グラフを読み取ったり作成したりする活動を多く取り入れる。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.3	61.9	59.4
	生命・地球	66.5	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	59.9	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	54.7	61.0	58.8
	観察・実験の技能	64.6	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	62.0	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○鏡ではね返した光の進み方は理解している。</p> <p>○実験の結果からわかるゼムクリップの磁性について指摘することの正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>●2つのおもちゃを比較して、ゴムのはたらきについて推測することに課題が見られる。</p> <p>●形を変えても重さは変わらないことを理解し、それを説明することに課題が見られる。</p> <p>●回路についての理解が不十分である。</p> <p>●電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明することに課題が見られる。</p>	<p>・実験から結果を理解しているが、分かったことや考えたことをうまく表現することができないため、理科特有の用語の定着を図り、それらを使って説明できるように指導する。</p> <p>・問題文をよく読んで情報を整理し、具体的な図や絵に描かせるような活動を行うことで、問題文を正確に読み取ることができるようにする。</p> <p>・自分の考えを明らかにし、全体で説明をする場面を多く設定する。</p> <p>・回路については、図や具体物を用いて説明したり、実際に自分で作業をさせたりして確認をする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○観察カードからアブラナとタンポポのちがいを読み取ることは、よくできていて県の平均を上回っている。</p> <p>○ハウセンカの種を正しくまいて世話をすることはよく理解できている。</p> <p>●ダンゴムシの観察のしかたとしてよいものを選ぶことに課題が見られる。</p> <p>●トンボの育ち方を理解し、ヤゴを正しく飼うことに課題が見られる。</p> <p>●トンボとクモが昆虫かどうかを見分けることに課題が見られる。</p>	<p>・生物に関わる機会が多いが、体のつくりや育ちへの理解が不十分である。実際に体験したことの内容はよく理解しているため、生物と関わる体験的な活動を取り入れる。</p> <p>・写真や図を用いて、体のつくりを説明したり、プリント学習で復習したりする場面を設定する。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的割合は、市と県の平均を上回っており、真面目に勉強に取り組んでいる様子がうかがえる。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的割合は、市と県の平均を上回っている。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「毎日の生活がじゅう実していると感じる」の肯定的割合は、県の平均を上回っており、学習に対して意欲的であることがうかがえる。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的割合は、市と県の平均を下回っており、自分の考えをまとめることに対しての抵抗感は比較的低いことがうかがえる。しかし、およそ4割の児童は苦手意識を持っており、さらなる改善を図っていききたい。

○「授業を集中して聞いている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定的割合は、市と県の平均を上回っており、学習環境が比較的整っていることがうかがえる。

○「学校のきまりを守っている」「誰に対しても思いやりの心をもってせっている」の肯定的割合は、市と県の平均を上回っており、落ち着いた雰囲気で学校生活を送っていることがうかがえる。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答は、市と県の平均を上回っている。反面、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的割合は、市と県の平均を下回っており、話し合い活動自体は、継続的に行われているが、積極的な姿勢で参加していないことがうかがえる。

●「家で学校の授業の復習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と答えた肯定的割合は、市と県の平均を下回っており、自分の課題を把握し、自主的に工夫して勉強していくことが苦手な様子がうかがえる。

●「学校の授業時間以外に、ふだん、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の肯定的割合は、県の平均より低い。また、勉強時間が30分以下の児童の割合が市や県の平均を上回っており、学習時間が短い児童が多い。

●「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の肯定的割合が市と県の平均を下回っており、読書の習慣、読書量が十分でないことがうかがえる。読書の推奨、指導を継続的に行っていくことで改善を図っていききたい。

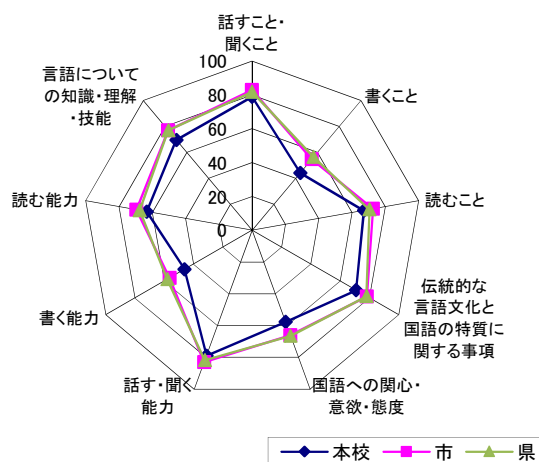
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分には、よいところがあると思う」「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定的割合は、市と県の平均を下回っている。学校生活の様々な場面で児童それぞれの良さを積極的に称賛することで、自己肯定感を高められるようにしていきたい。

●スマホやゲームで遊ぶ時間は、市と県の平均より短い傾向にあるが、テレビやDVD等の視聴時間は、市と県の平均を上回っている。テレビ等の視聴時間を決めるなどの家庭でのきまりづくりなどを啓発していきたい。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.9	82.9	81.8
	書くこと	44.2	54.8	56.5
	読むこと	67.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.9	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	57.7	66.0	66.4
	話す・聞く能力	78.9	82.9	81.8
	書く能力	46.2	56.3	57.9
	読む能力	63.3	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	69.7	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

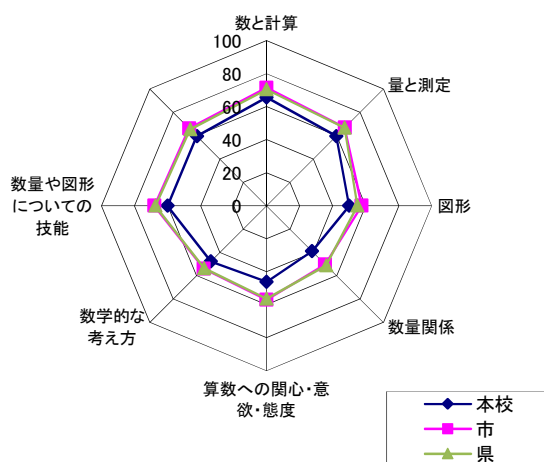
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均と比べて低い。 ○「話し合いの内容を聞き取る」では、県平均とほぼ同じである。普段の朝のスピーチや話し合い活動が生きてきていると思われる。	・話し合い活動を充実させ、司会の役割として参加者の発言をまとめることも意識させて行っていく。
書くこと	平均正答率は市の平均と比べて低い。 ●「書くこと」では、正答率が県平均より10ポイント以上低い。条件に合わせた文章で書くことが課題である。	・情報を読み取って、まとめる力が弱いことから新聞記事のスクラップなどを通して、要約をしたり自分の意見をまとめたりする経験を積ませる。 ・自分の考えが明確になるように、具体的に文章を書く経験を積ませる。
読むこと	平均正答率は市の平均と比べて低い。 ○「物語の内容を読み取る」と「説明文の内容を読み取る」ことで、2項目とも県平均とほぼ同じである。チャレンジブックの推奨により、読解力がついてきたと思われる。	・引き続き学校推奨図書「チャレンジブック」を奨励し、多様な文章に触れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市の平均と比べて低い。 ●「漢字を書く」では、正答率が低かった問題において無回答が多くみられる。 ●「漢字辞典の使い方」では、県平均を20ポイント下回っている。使い方に慣れていないと考えられる。	・漢字オリンピックを継続して行い、朝の活動の時間を計画的に利用し、漢字の練習だけでなく言葉のきまりも継続して行っていくようにする。 ・普段から辞書を活用することで、使い方に慣れさせる。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.6	71.5	70.4
	量と測定	59.7	67.0	66.9
	図形	50.0	57.6	55.0
	数量関係	38.9	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	46.1	57.0	56.3
	数学的な考え方	47.7	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	60.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	59.7	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

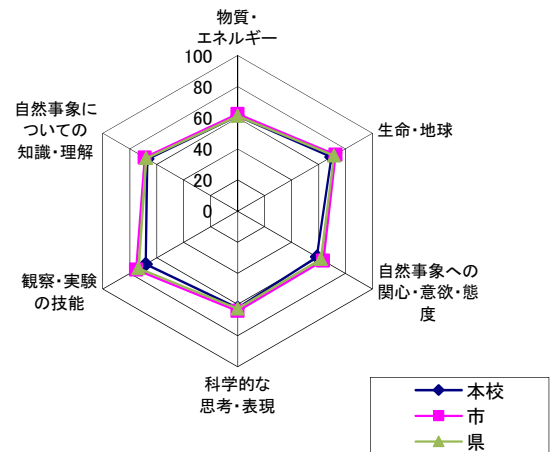
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○大きな数(兆や億)について十進位取り記数法の理解がよくできている。</p> <p>○数直線上に示された分数の読み取りや仮分数、帯分数、整数、真分数の大小関係の問題がよくできている。</p> <p>●帯分数→真分数(同分母分数・繰り下がり)や帯分数+真分数(同分母分数・繰り上がり)に課題が見られる。</p> <p>●除法の計算の仕方を工夫し、暗算することに課題が見られる。</p>	<p>・計算ドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。</p> <p>・帯分数を仮分数に、仮分数を帯分数に直すやり方や同分母分数の計算のやり方を丁寧に指導し、繰り返し計算の練習を行う。</p> <p>・分数や小数の仕組みについての基本的な知識が身に付くように丁寧に指導し、分数や小数の数量感覚を養う。</p> <p>・工夫して計算すると簡単に計算したり暗算できたりする良さを実感できるように、繰り返し問題に取り組ませる。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●算数の教科書のおよその面積を選ぶ問題は、正答率が3割であり、理解が不十分である。</p> <p>●分度器中に示された角の大きさの目盛りの読み方や180°より大きい角度を求める式を選ぶ問題に課題が見られる。</p>	<p>・日常生活の中で、およその数を求める場面を設定したり、概数を使って物事を判断する問題を取り入れたりすることで、概数で表すことの良さや目的を理解できるようにする。</p> <p>・分度器の目盛りを反対から読んでしまった誤答が多かったことから、分度器の目盛りの読み方の基本をしっかりと身に付けさせるよう繰り返し指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○四角形の対角線の性質を問う問題はよくできている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかいて、ひし形を完成させることに課題が見られる。正答率が約5割程度であり、理解が不十分である</p>	<p>・習熟度別学習を取り入れ、少人数での作図指導を丁寧にしたり、朝の学習や家庭学習で繰り返し問題に取り組ませたりする。</p> <p>・作図の学習では、図形のかき方だけでなく、図形の特徴を考えたり図形を比較して同じところや違うところを考えたりすることで、図形の性質をしっかりと理解できるようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●図や表から変わり方を考え、□や○を使って関係を式に表す問題に課題が見られる。</p> <p>●四則の混じった式の計算の順序や分配法則についての理解が不十分である。</p> <p>●棒グラフと折れ線グラフが同時に表されているグラフから正しく目盛りを読み取り、それを根拠に理由を説明することに課題が見られる。</p>	<p>・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線等に表して説明し合う活動を取り入れる。</p> <p>・計算のきまりを使って計算を工夫することにより、簡単に計算できる良さを実感させる指導を繰り返し行う。</p> <p>・棒グラフや折れ線グラフの特徴や目盛りの読み方を丁寧に指導する。また、社会や理科などの他教科と関連付け、グラフを読み取ったり作成したりする活動を多く取り入れる。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.1	62.4	61.1
	生命・地球	69.6	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	58.8	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	62.2	64.1	62.6
	観察・実験の技能	68.2	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	67.0	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均正答率と同じだが、市の平均正答率は若干下回っていた。</p> <p>○おもちゃ内の豆電球が光る仕組みについてはよく理解している。</p> <p>○空気であらうで空気をおし縮めた時の手ごたえと、空気のもとにもどろうとする力によって球が飛ぶことに関する問題は、県の正答率を上回っている。</p> <p>●水のあたためり方をもとに、投げ込みヒーター(水を温める道具)の先が長い理由を推測し、説明する問題に課題が見られる。</p> <p>●水が氷になるときの体積変化について説明する問題に課題が見られる。</p>	<p>・実際に実験などで体験したことのある問いに関してはよく理解できているので体験する場面を多く設定する。</p> <p>・学習内容と日常生活を結び付け理科の学習を身近に感じられるような工夫をすることで、児童の関心を高め理科の知識の習得を図る。</p> <p>・問題文をよく読んで情報を整理し、具体的な図や絵に描かせるような活動を行うことで、問題文を正確に読み取ることができるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○1年間の動物のようすや動物の体のつくりと運動の問題については県の正答率よりも高い。</p> <p>○蒸発に関する問題によく理解している。</p> <p>●事象が起こる理由を説明する問題の無回答率が全体的に高くなっている。</p> <p>●温度計の正しい使い方に関して課題が見られる。</p> <p>●誤った星座の観察のしかたを改善する問題に関して課題が見られる。</p> <p>●「自然の中の水」の問題で、容器にふたをすると、水蒸気が空気中に出ることができず、ふたに水滴がつくことの理解が不十分なため、容器の水も減少すると誤答している。</p>	<p>・自分の考えを説明する力が十分についていないので、予想、実験、考察の中で自分の考えを明らかにし、説明をする場面を多く設定する。</p> <p>・水の状態変化については児童の日常生活と関わりが深いので、児童の経験を学習に生かせるような手立てを考える。</p> <p>・様々な器具の名称や正しい使い方を、実験や体験の活動を通して一人一人が身に付けられるようにする。特に、温度計と星座早見の使い方に関しては十分に確認をする。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「家で、学校やじゅくの決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」の質問について肯定的回答をした児童の割合が県や市の平均を上回っている。
- 「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」や「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問について、読書時間や本を読む冊数については肯定的回答をした児童の割合が県や市の平均を上回っており、読書に親しんでいる様子が伺える。
- 「学校の宿題は自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問について肯定的回答をした児童の割合が9割を大きく超えている。家庭学習の大切さを理解している様子がうかがえる。
- 「将来の夢や目標をもっている」の質問について肯定的回答をした児童の割合は9割を超えており、県や市の平均を上回っている。学校全体でキャリア教育に力を入れてきた成果であると思われる。
- 「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家で、のきまりややくそくを守っている」の質問について肯定的回答をした児童の割合が県や市の平均を上回っており、児童が家族の一員として温かな環境に身を置いていることがうかがえる。
- 「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の質問について肯定的回答をした児童の割合が県や市の平均を下回っており、宿題が復習になっていることへの意識が薄いことがうかがわれるので、家庭学習の意味と役割について再度指導していきたい。
- 「自分はクラスの人の役に立っている」「自分の行動や発言に自信をもっている」の質問について肯定的回答をした児童の割合が、5割程度と低い。学校生活の様々な場面で児童それぞれのよさを取り上げ、自信をもたせるようにする。
- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問について肯定的回答をした児童の割合が5割以下と低い。話し合いや発表の場を多く経験させることにより、発表に対する抵抗感をなくし、意欲を持たせるようにする。
- 「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか。」については、3時間から4時間以上視聴すると答えた児童の割合が45%であり、県、市の平均を大きく上回っている。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」についても、3時間から4時間以上ゲームをすると答えた児童の割合が38.3%であり、県、市の平均を大きく上回っている。テレビ等の視聴時間やゲームをする時間を決めるなどの家庭でのきまりづくりを啓発していきたい。
- 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合が6割以上と市の平均より高くなっている。書くことに抵抗がある児童が多いので、授業の中などで自分の考えを短時間で書く機会を多く設けるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) ・朝の学習の充実 ・「漢字・計算オリンピック」の実施(年3回)	・4年生について算数の数と計算に関する問題では、県の平均正答率とほぼ同じであり、上回る問題もいくつかあった。また、かけ算の計算についての5年生の正答率が、昨年度4年生だった時と比べて20ポイント以上増加している。 ・言葉のきまりやローマ字、漢字辞典の使い方、分度器の使い方や図形の作図などの基本的な知識や技能に関わる問題の中で、県の平均よりも下回るものがあつた。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・7月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。	・「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4・5年生ともに県や市の平均を上回っている。しかし、学習時間については、全体的に学習時間が少なく、休日に全くしない児童の割合も高い。
自分の考えをもち、説明する力を付けさせる指導の工夫	・自分の考えを書く場を多く設定し、「書く」ことの習慣化を図る。 ・根拠を明確にして自分の考えを表現できるように、手順を示すなどして書き方や説明の仕方を丁寧に指導する。 ・学習形態(ペア・グループ)を工夫し、互いの考えを伝え合う活動を多く取り入れる。	・教科に関する調査から、4・5年生ともに、記述式設問の無回答率が市の平均と比べて高い。 ・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている児童は、4年生で5割、5年生で6割を超えている。 ・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と肯定的な回答をした児童は、4年生で県の平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・言葉のきまりやローマ字、漢字辞典の使い方、分度器の使い方や図形の作図などの基本的な知識や技能に関わる問題の中で、県の平均よりも下回るものがあつた。	復習により定着を図る学習の充実	・定期的なミニテストの実施(授業開始5分間で) ・朝の学習の内容を充実させる。 ・前学年までの内容を復習する機会を設定し、定着を図れるようにする。(ステップアップシートやパワーアップシート等の活用)